



NEWS RELEASE

国土交通省 近畿運輸局

問い合わせ先

(所属) 海事振興部船員労政課

(担当) 田中

(電話) 06-6949-6435

令和8年9月30日

内航船員の確保・育成対策 水産系高校にて職業講座を実施しました！

内航海運は、日本経済を支える重要な産業です。これを支える船員は、業界全体として若年層が増加傾向にあるものの高齢化は著しく、将来における担い手不足が生じないように十分な数の船員の確保が必要とされております。

これを受け、国土交通省では、内航船員の確保育成施策を推進しており、近畿運輸局においては、近畿内航船員対策協議会と連携して、若年船員の確保に向けて各種事業を実施しています。

今般、令和8年9月16日（水）に福井県立若狭高等学校において、海運における労働環境などを理解してもらうため職業講座を実施しましたので、お知らせいたします。

実施日及び場所：令和8年9月16日（水）福井県立若狭高等学校

受講生：海洋科学科 3年生 5名

講師：近畿内航船員対策協議会 磯合 信之 氏

講義内容：『海運の重要性と船員の仕事について』



「C to Sea プロジェクト」

海と船がもっと楽しく身近になる情報発信中！！

海と船のポータルサイト「海ココ」開設 →



配布先：海運関係業界プレス

水産系高校にて職業講座を実施しました

～内航船員の『リアル』な仕事と就労実態を紹介～

近畿運輸局及び近畿内航船員対策協議会（会長：林 一男 田渕海運(株)取締役）では、9月16日（水）に福井県立若狭高等学校（小浜市）において、同協議会の構成員 磯合信之氏を講師とする職業講座を実施しました。

本職業講座は若年内航船員確保推進のため、内航船員の重要な供給ソースと期待されている水産系高校に出向き、同校の生徒に、将来の職業選択・進路選択にあたって内航海運業・内航船員という職業についての理解してもらうことを主な目的として実施しているもので、今回の職業講座では、講師から特に、船員という職業のリアルな一面の話も伝えました。

なお、当日は、海洋科学科の3年生5名の参加がありました。



講師から、まずは、日本は輸入に依存していること、輸入のうち99.7%の輸送は船舶により行われていること、外航船による輸送が行われないと、日本で自給できない小麦、コーヒー、大豆を原料としたもの等が食べられなくなることを伝えました。また、内航船においては石油類やセメント、鉄鋼等の輸送が行われており、国の基幹産業を支える非常に重要な役割を担う、非常にやりがいがある仕事であることを伝えました。

次に、海技免状の取得の必要性和さらに上級の海技免状取得を目指す向上心が必要であること、そのためには在学中の今の時期に勉強しておくことの重要性を伝えました。また、



リアルな話として同じ会社に3級海技士と4級海技士の二人がいる場合、会社としては上級の海技免状を取得した者の努力を評価すること、また甲板部に比べて機関部は職員が少ないので、出世が早いかもしれないことも伝えました。

続いて、実際に内航海運会社に就職し乗船することとなった場合の仕事内容や給料、休暇などの待遇面についての話もしました。生徒の関心が高かった話でもあり一般的な話に加え、講師の経験談を交えたリアルな話も伝えました。

講義後、生徒から「若いときはどんな事で苦労されたのか」、「女性船員の場合は船内でどのような制約があるのか」、「海技短大に在学中にどのようなことを準備しておけばよいのか」、「船の中での仕事の時間以外の過ごし方は?」、「外航船では外国人と一緒に乗船することになると思うが、英語の能力はどれくらい必要か」、「若い船員に求められることは?」など、多くの質問があり、将来船員を目指すリアルな気持ちが伝わりました。生徒からの質問には、講師から時間の許す限り丁寧に回答されました。

近畿運輸局では、今後も近畿内航船員対策協議会と連携して、海運の安心かつ安全な輸送に活躍する船員の確保のため、「海運の重要性」や「船員の仕事」についてのPR活動を積極的に行い、「船員」の仕事が将来の職業の選択肢の一つとなるように、引き続き職業講座を実施していきたいと考えています。

（近畿運輸局 海事振興部 船員労政課）